

こ く さ い  
克 災 戦 略 研 究 会

1. 目 的

中部地方は、わが国最大のゼロメートル地帯を抱え、伊勢湾台風や東海豪雨で大規模な水害に見舞われました。地球温暖化による異常な水象の多発が予想される中、こうした教訓を踏まえ、行政と個人や法人との適切な役割分担のもと、万が一の時でも被害をできるだけ少なくし災害を克服していくことが求められています。

このため、伊勢湾台風や東海豪雨等の水害常習地域である名古屋圏を対象とし、個人や法人が災害に対して自衛する「自助」に対して、過去の事例や企業・大学・NPOのノウハウを活かした具体的な支援のあり方やその実効性を高める戦略を研究します。

## 2. 主な検討事項

- 水害に立ち向かう実際的な自衛の手だての把握
- 克災に役立つ製品・システムの開発手法
- 克災に関する産官学連携への支援のあり方
- 個人や法人等への情報発信や普及のあり方

## 3. 研究会の構成・進め方

本研究会は様々な分野における有識者により構成し、メンバーは別紙－１の委員でスターとします。

研究会の進め方は別紙－２のように想定していますが、研究会の議論により柔軟に対応します。

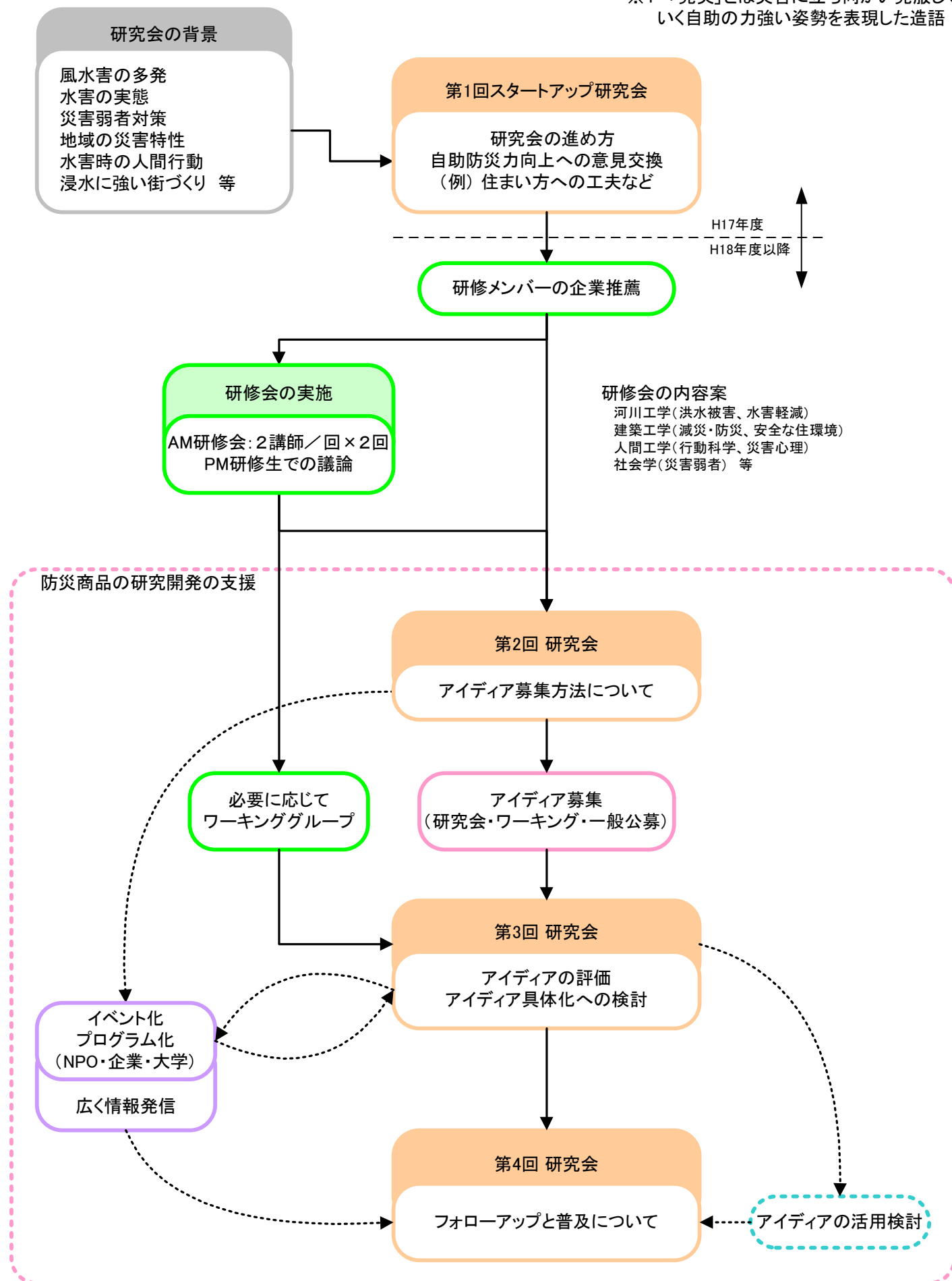
こ く さ い  
克 災 戦 略 研 究 会  
委 員 名 簿

研究会会長	谷岡 郁子	中京女子大学理事長
委 員	辻本 哲郎	名古屋大学大学院教授
〃	大野 睦彦	(社)中部経済連合会常務理事
〃	小田 靖弘	防災・環境新技術研究会アドバイザー
〃	細見 寛	中部地方整備局河川部長
オブザーバー	栗田 暢之	特定非営利活動法人 レスキューストックヤード代表理事

※敬称略

# 克災戦略研究会※1の進め方

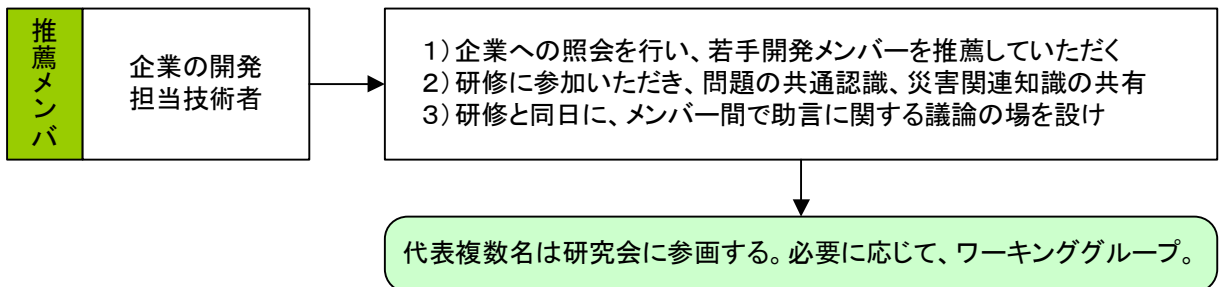
※1 「克災」とは災害に立ち向かい克服していく自助の力強い姿勢を表現した造語



研究会の目的

○ 伊勢湾台風や東海豪雨等の水害常習地域である名古屋圏を対象とし、個人や法人が災害に対して自衛する「自助」に対して、過去の事例や企業・大学・NPOのノウハウを活かした具体的な支援のあり方やその実効性を高める戦略を研究する。

		分野	細分	
克災戦略研究会	研究会長			谷岡 郁子 中京女子大学理事長
	学識経験者	河川工学	洪水被害 水害軽減	辻本 哲郎 名古屋大学大学院教授
	経済界	経済団体	経済連合等	大野 睦彦 中部経済連合会常務理事
	防災	防災アドバイザー		小田 靖弘 防災・環境新技術研究会アドバイザー
	行政			細見 寛 中部地方整備局河川部長



研修講師(案)	河川工学	洪水被害 水害軽減	関連河川の洪水の特徴、水害と他の災害の違い、濃尾平野地域での気象や水害の特徴、水害軽減に関する知見、伊勢湾台風や東海豪雨での被害の実態。濃尾平野での洪水被害や水害軽減について助言
	建築工学	減災・防災 住環境の安全	建築工学の見地から、水害に関する防災、減災に関する知見。住環境を建物と地域の観点から安全性に関する助言。具体的な減災対策住宅の知見。
	人間行動	行動科学 災害心理	災害時の人間行動学。大型台風接近、豪雨、水位上昇、水害時等の各状況での行動と情報付与に関する知見。災害に対しての人間の心理学。災害現場での必要となった事案等。
	社会学	災害弱者	都市防災。安全な社会の創出。災害時要援護者(災害弱者)やその施設・社会環境に関する知見。援護の手法や援護者・被援護者の実態。